

## 第1回 宇都宮市緑の基本計画策定懇談会 会議録

■日時 令和4年7月15日（金）13時30分～15時00分

■場所 上下水道局5大会議室（オンライン併用）

### ■出席者（委員名簿順、敬称略）

【委員】 大森宣暁，桂木奈巳，五艘みどり，林光武，山根健治，相澤美知子，岡地和男  
小池恵一郎，駒場久，齋藤健壽，齋藤美和子，野口進，富健治

<オンライン参加> 富久田三千代

※福田嘉男委員は所用により欠席

【事務局】 都市整備部長，都市整備部次長，景観みどり課長，景観みどり課職員6名  
（株）プレック研究所2名

■傍聴者 0名（報道機関2名）

### ■配付資料

次第，委員名簿，宇都宮市緑の基本計画策定懇談会設置要領

資料1 計画策定の進め方

資料2 宇都宮市の緑の現状（概要）

資料3 新しい計画の策定課題と特に議論すべき論点案

参考1 第2次宇都宮市緑の基本計画リーフレット

### ■ 次第

1 開会

2 挨拶

3 緑の基本計画策定懇談会の設置について

（1）設置要領等について

・事務局より，宇都宮市緑の基本計画策定懇談会設置要領に基づき，説明を行った。

（2）委員の紹介

（3）会長・副会長の選任

・委員の互選により，会長に大森委員，副会長に小池委員が選任

4 会議の公開について

・本会議は公開として決定

5 計画策定の進め方について

・事務局より，資料1に基づき説明を行った。

6 協議事項

・事務局より，資料2，資料3に基づき説明を行った。

（1）宇都宮市の緑の現状について

（2）新しい計画の策定課題と特に議論すべき論点について

7 その他

8 閉会

## ■発言要旨

5 計画策定の進め方について	
岡地委員	第3回懇談会で議題となる地域別計画について、どのような地域区分を想定しているか。
事務局	現行計画は都市計画マスタープランに沿った地域区分になっているが、改定計画でどのような地域区分にするかは、今後検討したいと考えている。
岡地委員	地域区分にも様々な方法があり、宇都宮市の目指すコンパクトシティの考え方に合わせた区分や、山林、田園地帯などの大括りで区分する方法などが考えられる。ぜひ、今後委員の方々の意見を聞きながら進めていただきたい。 計画の実効性が担保されるには、自分の地域がどうなっているかを知ってもらわなければならない。市民の人々が、イメージできる課題や取り組むべき内容を地域別計画にしていきたい。
富委員	LRT整備など、中心市街地開発が進んでいるところだが、その影響もあって緑の減少が著しい。中心市街地の緑については重点的に進めていただきたい。
大森会長	次の議題で詳しく協議できればと思う。
6 協議事項	
(1) 宇都宮市の緑の現状について	
(2) 新しい計画の策定課題と特に議論すべき論点について	
富委員	中心市街地の範囲は、八幡山を含んでいる。八幡山は市街地のなかにある唯一の大きな緑地であるが、残念ながら生活には密着していない。中心市街地では、LRT整備によってJR宇都宮駅東側のトチノキ並木が伐採されてしまい、代替となる緑も植えられていない。駅前再開発で緑は増えると思うが、目に見えた大きな緑ではない。都市開発を進めていく上で、緑の基本計画がどれだけ周知されているかが疑問である。 旧日光街道沿いは、宇都宮裁判所に接続するところまで緑が一切ない。中心市街地に人を呼び込むという視点からも、中心市街地の緑は重要な課題であり、重点的に計画を立てていく必要がある。
大森会長	中心市街地の緑が減っていることは、今後、ネットワーク型コンパクトシティの形成とも関連する課題だと思う。事務局から何か意見はあるか。
事務局	中心市街地の緑については、グリーンインフラの視点からも、緑で空間を居心地良くすることが重要であり、この考えを取り入れながら計画を策定することが重要であると考えている。具体的には、次回の懇談会で議論していただく案件となる。

また、市民アンケートでも中心市街地の緑が少ないという結果が出ており、市としても緑を増やしていかなければならないと考えている。広幅員の道路には可能な限り街路樹を整備したいと考えているが、公共工事による制約、維持管理の問題などから本数が減少している。中心市街地の緑は大切であるため、今後検討していきたいと思う。

相澤委員

緑を増やすために花を飾っても、枯れたものが散らばっているときれいではない。そのため、清掃と緑化を一緒に考えていかなければならない。商工会議所では、二荒山を中心に清掃ボランティア活動を行っている。昔は大きいゴミ袋にいっぱいゴミが何袋も出ていたが、活動を重ねるうちに、地域の方々も自宅前を清掃するようになり、今はそれほどゴミ袋も必要なくなったが、緑を増やすことと清掃はセットで考えるべき課題だと思う。例えば、ハナミズキの花などが道路に落ちているが、誰が清掃するのかということも考慮し、地域住民と協力することも含めて考えていかないと、街はきれいにならない。

大森会長

市民アンケートでも落ち葉の清掃が大変という結果があった。相澤委員のご意見は論点3にも関連することだと思う。

岡地委員

中心市街地の緑をいかに増やしていくか、育てていくか、維持管理していくかが課題だと思う。中心市街地を少し外れると、空き家や空き地が多くなる。そうした場所では、逆に緑が地域を乱し、不法投棄により地域の人に迷惑をかけることもある。緑は、景観と相まってこそ生きてくるものである。増やしていけば良いというだけではなく、増やしながらか管理していくということで、緑の素晴らしさが際立つと思う。地球温暖化対策などから、世界的にも緑は大切なものとなっている。緑がきちんと管理されれば、それだけで観光地になる。緑の魅力は、人を癒すだけでなく、経済力を生むものでもあるという視点が大切である。今回の計画には、そのようなところからも最終目標のあるべき姿に向かっていければ良いと思う。

富委員

公園について、国土交通省が示す市民一人当たり 10 m<sup>2</sup>という基準に対して、宇都宮市では 11.42 m<sup>2</sup>である。昭和から平成の時代には公園面積を増やす方向の施策が、近年人口が減少する中で、公園や緑の質が求められている。また、カーボンニュートラル、脱炭素化が謳われる中で、市街地の中でCO<sub>2</sub>を吸収するのは緑しかない。そのためにも、行政と市民で緑を管理していかないといけない。釜川でプランター設置を行っているが、これも質が大事である。静岡市や高崎市を訪れた際、宇都宮市と同じ地方都市でも花が非常にきれいだった。それは、プロムナードにハンギングバスケットなどを自由に置くのではなく、植える花の種類や年間メンテナンスなどを造園の専門家が監修しているためである。先ほど岡地委員からも話があったが、緑や花は観光促進の大きな要素にもなると思う。財

	<p>政状況が厳しく同じようなことは難しいかもしれないが、ただ緑や花を増やすのではなく、専門家をいれて、公園に植える樹木やハンギングバスケットの質も重視していただきたい。宇都宮市を訪れた人を、花や緑で感動させられる街にしていきたい。</p>
大森会長	<p>緑の量だけでなく、質も重要との意見である。次回取組目標には、緑の質を測れる指標を何か考えられるといいと思う。</p>
五艘委員	<p>現行計画の成果について、緑視率は10年前と比べてほぼ横ばいであり、目標を達成できていない。せっかくいい計画を作っても実行できなければ意味がないため、実行できる目標設定、施策にしないといけないと思う。そもそも目標設定に問題があったのか、目標に向けた施策に原因があったのか、現行計画ではどこに問題があったのかを資料に示していただきたい。</p> <p>また、今後は市民をいかに巻き込んでいくかが重要だと思う。例えば、どうすれば中高生に参加してもらえるか等も検討できると良い。</p>
富久田委員	<p>なぜ目標値を達成できなかったのか、数値目標に対してどういうチェック体制だったのか、市民も疑問に感じると思うので、次回詳しく教えていただきたい。</p>
事務局	<p>次回資料を用意して説明できればと思う。</p>
桂木委員	<p>私が勤める大学内に学長から自由に使用してよいと言われている林地があり、学生と一緒に、子供が遊べるような空間を作っている。2015年から始まった取組で、現在の課題が維持管理である。最近の学生は体力が無く、作業時間よりも休憩時間が長い。また作業よりもアルバイトに行った方がよいというモチベーションになっている。最近、子供が実際に遊びに来ており、学生がその様子を見て、「自分たちが作り上げた場所で子供たちがこんな体験をしてくれている」と感じられることが活動のモチベーションになっている。利用している場を目に見える形で感じてもらえれば、市民ボランティアの方にとってもモチベーション維持になるのではないかと。また、学生たちにとっては、その場所がきれいになって楽しいということも当然あるが、取組を通じて仲間と交流を持つことが最も楽しいようである。仲間づくりの工夫も必要になってくると思う。</p>
大森会長	<p>今のご意見も論点3に関連するところである。</p>
林委員	<p>現行計画の策定から現在までの大きな環境変化としては、国が生物多様性国家戦略を示したことが挙げられる。その中で、生物多様性保全における緑の基本計画に期待される役割が明記されたため、今回の緑の基本計画では、生物多様性保全についても組み込む必要がある。</p> <p>緑と言っても場所による質の違いがある。生物多様性は、珍しいものとして語られることが多いが、様々な生き物が暮らせる環境があるということも生物多様性</p>

保全である。従来の生物多様性保全は、残っている良い場所を残す施策が中心であった。

一方で、中心市街地は、人が暮らす場所であることが前提にあり、安全性や維持管理の問題を解決する必要があるが、その上で、様々な生物が暮らせる緑を街なかに取り込むことも大事なことである。緑があれば良いということではなく、在来生物が暮らせるような緑地を導入することを、質の評価として加えていただきたい。また、希少種がいる良い環境が残されてきた場所は、原生的な環境ではなく、人が手を加えて今の姿がある。手を加えなければ、希少種が生息できる場所が保全されるわけではない。

生物多様性が保たれるためには、ある程度まとまった山林の緑地があることも大事な視点である。グリーントラストうつのみやが事例として取り上げられたが、このような事例が当たり前のこととなり、あらゆる企業が緑地保全に取り組み、企業イメージの向上を目指すことができればと思う。

もう一点、どのような都市公園を維持していくかについては、地域の人が公園をどうやって使っていきたいかという、地域の合意形成がないと難しいと思っている。地域ごとに話し合う仕組みや、話し合いを誘導する仕組みを行政が考える必要があると思う。その話し合いの中で、多少荒れていても良いという意見もあるかもしれない。郊外も含めて、地域ごとに話し合いができるコミュニティがあるということが重要である。

岡地委員

グリーントラストうつのみやでは、鶴田沼緑地など市内4か所で環境保全の取組を行っている。現在、高齢化が進み、維持管理に必要な労働力が不足している状況である。緑を守るためには、なぜ緑が大切なのか、市民に維持管理の大切さを分かってもらう仕掛けづくりが必要だと思う。これからは市民参加なしに維持管理を継続していくことは難しい。企業や学校など、色々なネットワークを作りながら、緑を育てていくことが求められる。

子供が緑にあまり興味を持たないのは、緑で遊んでいないからである。大人も緑にふれていない。体験しない限り、本当に重要なことは分からない。我々の取組としては、緑の保全がなぜ必要なのかについて、維持管理活動を実際に体験してもらい、その大切さを共有しながらつながりを持っていくように仕掛けた。今回はトヨタウッドユーホームと連携したが、こうした仕掛けを他の事業者にも入ってもらいながら広げていくことができれば、中心市街地でも緑の質を上げられるかもしれない。

野口委員

公園に求める役割として、こころの潤い・安らぎ、ヒートアイランド減少の緩和、景観の形成は非常に大切だと思う。私は、NPOとして市内の東の林の保全活動を17年ほど行っている。そこでは、子供の健全育成の場として、毎月自然体験や観察を6年ほど続けている。毎月の保全活動として、子供が林の中で遊んでも安全な手入れの仕方を行っている。

市街地に近い場所のため、道路から見える所はきれいにしておかないと、すぐにゴミが捨てられてしまう。不法投棄をしないように看板を立てているが、それで

もペットボトル等が捨てられてしまうこともある。コロナ禍以前は、企業の CSR 活動として保全活動体験を行っていた。最近、宇都宮大学のある研究室の学生が毎月何人か参加し、保全活動を行っている。子供が遊べる林、近隣の人が自由に散策や休憩できる林として残していきたい。このような取組を都市部でも行うことができれば良いと思う。

公園の樹木については、どういう樹木をどのように植えるのかも大事である。落ち葉が困る、木の根が持ち上がるという市民意見もあるため、樹種の選定から行わなければならない。地域の人を巻き込むことも非常に大事である。維持管理の上でも、地域の人々の憩いや散歩の場として使っていくためにも、近隣の人も巻き込んで進めていくことが大事であると思う。

小池委員

自治会やまちづくり活動として、宇都宮の南の方で活動している。昔は平地林があったが、開発が進み、20～30 軒ほど住宅が整備され人が移ってきている。その人たちは、以前そこに平地林があったことを知らない。街の状況が変わってきている。

また、近所には植栽のある公園があるが、そういう所で清掃をしながらコミュニケーションを取っている。新しい公園は樹木がなく遊具だけのため、そうしたコミュニケーションの場がない。自治会活動やまちづくりの中で、自然や緑に接する機会や話題が作られる。細かな地域活動の中で、特に若い人たちが緑に対する関心を持ってもらえるように、我々も働きかけるが、行政も働きかけてくれないかと期待する。

山根委員

市の考えるスーパースマートシティという考えは素晴らしいと思う。こういった構想を宇都宮市民全体で共有できる仕掛けが必要だと思う。その上で、緑は必要不可欠で、ボランティアや子供の教育の場で緑に関する活動を取り入れていくなど、社会貢献の面でも必要なことである。市の予算の使い方として、緑に使うのであれば良いと市民に納得してもらえるよう取組を広げていければ良いと思う。農学部としては、中心市街地はもちろんだが、その上流の森林、河川、流域、田んぼダムもぜひ市民に理解してもらえる形を目指していただければと思う。

駒場委員

地域住民がまとまったグループを作って管理していくとしても、これからは高齢化が心配である。

齋藤(健) 委員

高度経済成長と共に、公道や公園などのあらゆるスペースに緑を増やしてきたが、今となっては樹木が大きくなり、落ち葉や根上がりの問題がある。これからはメンテナンスしやすく負担にならない樹木を考えてはどうか。30～40 年と経過した大きな樹木は倒壊の危険もあって危ない。住民の生活のスタイルも変わってきており、木の見直しも必要なのではないか。造園業協会としても維持管理をやってきたが、何か提案することがあれば意見を出させてください。

齋藤(美) 委員

これまで植物に関心が無かったが、5 月にハンギングバスケットの取材を頼まれ、

大森会長	<p>実際に体験して植物を育てることが面白いと気付いた。他の委員の皆様と意識は違うが、参加したら楽しいと感じる取組が良いと思う。最近ではコロナで外出できないため、身近に植物があるといいという声をきく。宇都宮市役所の前に植物があるが、場所によってはコンクリート舗装でくつろげないと感じることがある。</p>
事務局	<p>全員の委員から意見をいただいたが、事務局から補足はあるか。</p> <p>皆様からのキーワードとして、緑の質が重要だと感じた。適切に管理されないと却ってマイナスになってしまうというご意見が一番大きな課題だと思う。加えて、地域で使う公園は、住民自らで考えて作ることが、その後の維持管理につながっていくというご意見をいただいた。また、緑は楽しいものであって、市民に意欲的に取り組んでもらう方向を今後考えていきたい。</p>
大森会長	<p>豊かな緑のある街の方が魅力的だと思う。そういったことをきちんと市民の方々に理解していただき、参加型で新たな質の高い緑を維持管理できるようにしていくことが重要と考える。</p>
事務局	<p>次回の懇談会は8月下旬の開催を予定している。本日いただいた意見をもとに3つの論点の整理を進め、今回は計画骨子案をお示しし、議論していただく予定。</p>